

# 病院薬剤師の1Patient体験記②

## ■教えます！調剤中の薬剤師の頭の中！■

みなさん、こんにちは！病院薬剤師のTと申します。

前回は医師や薬剤師の信頼を得るためにはどうするか？というテーマで書かせていただきましたが、今回は薬剤師Tが調剤しているときに何を考えているの？ということを知りたいと思います。

薬剤師が処方を受け取ると、大まかに処方監査→調剤→最終監査→投薬の順に仕事が進んでいきます。そして処方監査時にはまず年齢・性別・処方内容を確認していきます。

もちろんアレルギー歴や副作用歴も確認します。その後処方された薬をみて患者さんの病状などをイメージしていきます。

例えば高血圧の薬を飲んでいる患者さんに利尿薬が処方されていればナトリウムを排泄して血圧を下げる作用を補っているのかな？といったように色々と患者さんの病状を想像していきます。

その中で違和感のある組み合わせが、薬の量が多すぎたり少なすぎたりしていそうなものがあればその部分を中心にカルテチェックを行います。

この時に確認するのは処方歴や検査データ、医師などのカルテ記載です。

この時処方薬を何も確認せずに検査データを確認しても焦点が絞れず患者さんの検査データから薬が原因の異常を発見するのは難しいと思います。通常は患者さんから情報を聞き取る場合は可能であれば処方受け取り時（保険薬局さんなら可能ですね）などに必要に応じて患者さんから直接情報を確認し、問題点を明らかにしていきます。

薬剤師の仕事のなかに「疑義紹介」というものがあります。処方薬の用法・用量・副作用など何かしらの疑問点がある場合に医師に確認し、必要に応じ処方を適正なものにしていく仕事です。これらを適正にすることで副作用が発現することをあらかじめ防いだり、薬の効果が最大限発揮できるようしたりするお手伝いをしています。

時には先生から嫌がられることもある疑義紹介ですが、実際に頭の中ではこんなことを考えているんだなあ、ということがお分かりいただけたでしょうか？

1 Patientは医師の頭の中を知ることが出来る貴重なツールです。医師の思考回路を理解して日々のMR活動にお役立ただけであればと思います。

### 病院薬剤師Tの略歴

病院薬剤師として25年以上、日本静脈経腸栄養学会の代議員、日本病院薬剤師会の理事の経験あり、病院薬剤師の業務改善に病院内外で取り組む。MRは医療従事者という考えで病院薬剤師と共に現場に医薬品情報提供が出来ることが理想。